

生物多様性

(原文)

山崎 凜太郎 (13 歳)

長野県

松本秀峰中等教育学校

私が小学校の時、茶臼山動物園へ行き、その動物園で人気者のレッサーパンダを見ました。レッサーパンダとはタヌキぐらいの大きさで、パンダの仲間で、目の周りに黒い模様があるとてもかわいい動物です。私は一目で好きになりました。家に帰ってレッサーパンダについて調べてみると、レッサーパンダは「絶滅危惧種」というものに分類されているということを知りました。絶滅危惧種とは絶滅のおそれがある生き物のことで、絶滅しそうな理由のほとんどが人間の活動によるものということも分かりました。レッサーパンダも生息地の山や森林を農業用地にするために開拓されたり、毛皮をとるために殺されたり、かわいいから生きたままつかまえられたりした結果、数が減ってしまったそうです。レッサーパンダのように絶滅しそうな種は、二万二千以上もあるそうです。私はそれを知り、かわいそうだと思いました。そして人間の活動が原因なら一刻も早くその活動をやめなくてはいけないと思いました。

しかし、絶滅危惧種の問題は単に、かわいそうな動物の命を守ろうというようなことだけでなく、私達人間も絶滅の危機を招くかもしれないおそろしい問題だということも知りました。なぜかという、最小のバクテリアなどの微生物からあの大きな鯨や植物まで地球にはいろいろな生物がいます。それが「生物多様性」です。いろいろな「種」がそれぞれの役割を果たし、つながりをもって絶妙なバランスを保つことで、地球上の生物は存続してきました。人間もそのバランスの中で生かされているのに自らそのバランスをこわしてしまっているのです。しかし、人間が生活していくために農業や商業は必要で、いくら将来の人間や動物が絶滅してしまうといっても簡単にはやめられません。だからこそ人間と自然がどうしたら共存できるか私たちの世代で真剣に考えていかなければなりません。

そして「生物多様性」を知って私が思うのは、人間同士の世界でも多様性は大切なことではないかということです。

例えば、大相撲の世界では、長い間日本人力士がかりだったけど、白鷗さんのように、モンゴルを始めルーマニアやブルガリアなどの国からも外国人が力士になり、活躍しています。そのおかげで、相撲そのものも盛り上がっていると思います。相撲は国技だから外国人力士をよく思わない人もいますが、私はいろんな人がいるからこそ相撲がおもしろいのだと思います。

私のクラスでも同じことがいえると思います。私のクラスには四十人のクラスメートがいます。そ

の中には他の市から来ている人もいます。小学校もほとんどの人がちがいます。そのせいか、私が当たり前だと思っていたことも、ほかの人には意外なことだったりしてまだまだとまどうこともあります。他にもちがいがたくさんあります。好きな教科、苦手な教科、好きなスポーツ、きらいなスポーツ、将来の夢、今の学校を選んだ理由などなど、数え上げるときりがありません。私は入学当初、なるべく自分と共通点がある人、趣味が同じ人を探して友達になろうと考えていました。そのほうが話しが合うし、楽しいだろうと思ったからです。でも、自分と趣味や考え方がちがうクラスメートと話をするともた別の楽しさがあり、おもしろいと感じることがあります。授業の時もいろいろな意見が出ると、なるほどと思ったりして、考え方がふくらみます。また、いろいろな意見があると自分の意見も言いやすいです。これはまさに多様性のおかげだと思います。

私が自然から学んだことは、自然でもクラスでも多様性は大事で、自分だけが中心という考え方でちがう意見を、否定することは自分自身の考えをせばめてしまうことになるということです。